

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/4/28作成 (株)新出光

【概況】<ウクライナ各地で再戦~世界経済の成長率見直し下方修正 >

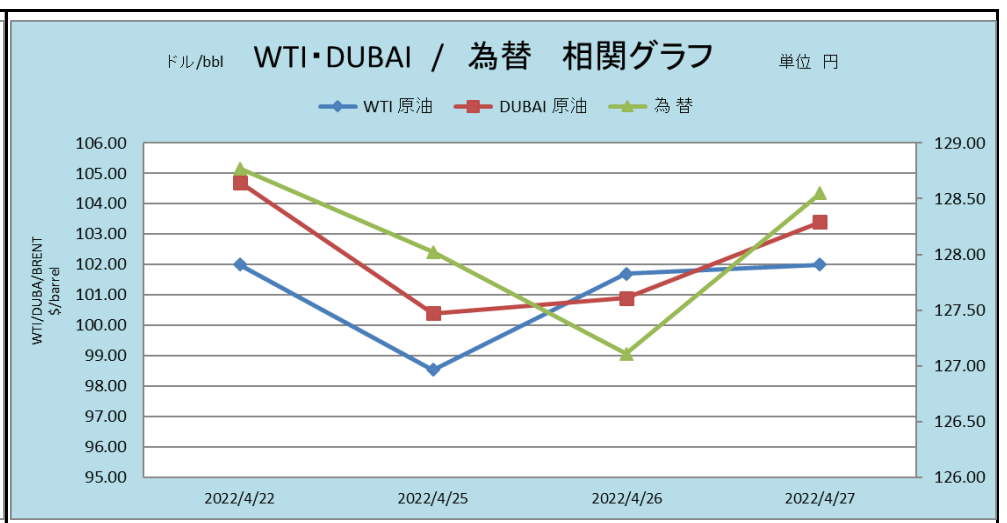
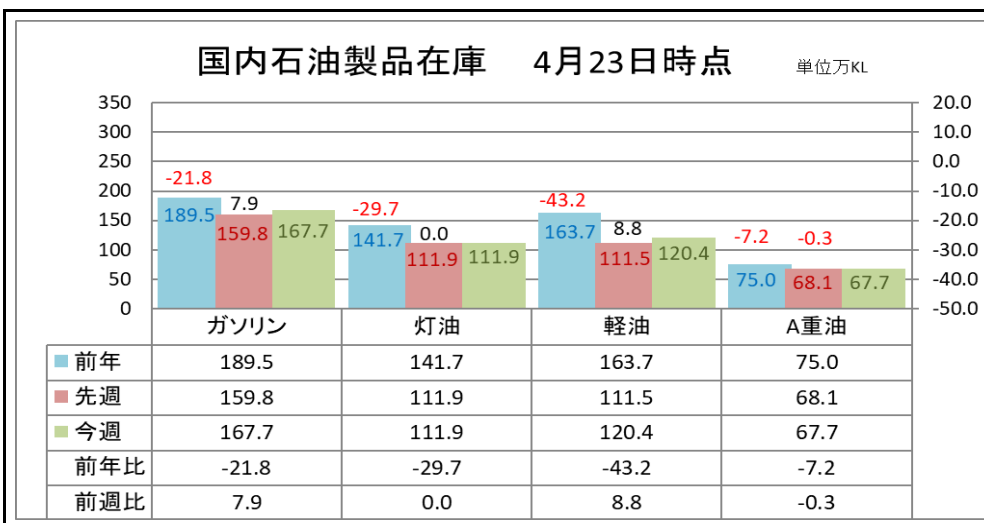
●22日、国際通貨基金(IMF)は今週、ロシアのウクライナ侵攻を理由に、2022年の世界成長率見直しを3.6%と、1月時点から0.8ポイント下方修正しました。中国・上海市では新型コロナウイルスの感染拡大を受けたロックダウン(都市封鎖)が4週間近く続いています。景気回復の遅れや経済活動停滞に伴う原油需要鈍化への懸念が強まる中、原油売りが膨らみ、WTI原油は、102.07ドルまで下落しました。

●25日、中国国内で行動制限の対象となっている人口は全体の約4分の1に相当する3億人超に上っています。主要なエネルギー輸入・消費国である中国経済が冷え込み、需要が鈍化することへの警戒感が強まりWTI原油は、一時95.28ドル迄下落しました。(当日終値は98.54ドル)

●26日、ロシアのウクライナ侵攻は継続中ですが、前日の原油相場は2週間ぶりの安値水準となった為、当日は前日の急落の反動から安値拾いの買いが入りWTI原油は、101.70ドルへ反発しました。

●27日、米欧の対ロシア経済制裁に伴うエネルギー供給不安は依然として相場の支援要因です。ロシア国営天然ガス独占企業ガスプロムがポーランドとブルガリアへの天然ガス供給を停止したことと、米国原油在庫状況が22日までの統計で市場予想200万バレルに対し70万バレルと大幅に下回った事で、WTI原油は、102.02ドルへ続伸しました。

4月28日 17:00現在 WTI原油 101.94ドル 為替 1ドル 129.86円



	次回元売変動予測	
	5/12~	元売変動予測
ガソリン	→	-3.7~-4.2
灯油	→	-3.7~-4.2
軽油	→	-3.7~-4.2
A重油	→	-3.7~-4.2
LSA	→	-3.7~-4.2

※原油コスト「-2.0円~-2.5円」
 ※激変緩和補助金「-33.5円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<月初は、元売週間玉及び市況連動玉中心の販売>

《今週》今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「+5.0円」、補助金「-31.8円」となり、実質サウジ調整金+1.7円を含み「-1.8円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの25日時点の小売価格平均は172.8円となっております。

今週のマーケットの主役は、元売週間玉を持つ業者です。しかし月末にかけて販売枠を残していた業者の処分売りにより販売競争は激化し市況は徐々に下がってきました。

《4月30日以降》次回の元売り改定は、原油コスト「-2.0~-2.5円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「-33.5円」の見込みで、都合「-3.7円~-4.2円」の改定の予測となっております。

5月は、いったん月代わりのリセット値上げが予想されます。月初は、各販売業者とも踏み込んだ提示は控えていますが、11日までコストの判明している元売週間玉を持つ業者と先安観があるため市況連動玉を持つ業者が販売の中心となり市況は構築されていくものと思われます。また昨年と違い人の移動も多くなることが予想されますので、需要は昨年より多くなると予想されます。

【次世代エネルギー】<日豪間の液化水素運搬に成功>

岩谷産業、川崎重工業、シェルジャパン、電源開発(Jパワー)、丸紅、ENEOS、川崎汽船の7社は2016年から「未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業」において、世界初の褐炭から製造した水素を液化水素運搬船で日豪間を海上輸送する実証試験を完結し、4月9日に記念式典が開催されました。式典には、岸田文雄首相が出席し首相は式典終了後、「脱炭素化は、水素社会の構築が大きな鍵になる」と指摘、また「需給両面から導入、拡大を早期に促すための投資規模について大胆な支援策を講じたい」と記者団に語りました。水素は脱炭素社会の実現に向けた次世代エネルギーとして期待されており、今後も技術的課題の検証を進め、国際的なサプライチェーン(供給網)の構築を急ぎ、本事業が次世代のクリーンな社会に貢献できるよう、引き続き関係者と協力して行くとのことです。

[出典]

① <https://www.marubeni.com/jp/news/2022/release/00031.html>